厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
分担研究報告書

アメリカにおける家族介護者支援プログラム：SCORE, REACH

研究分担者　　森山葉子　　国立保健医療科学院　主任研究官

研究要旨
アメリカでは、高齢者へのサービス提供や、家族介護者支援に関わるサービスについて、法律で明記されており、これらの元、研究者らにより家族介護者支援プログラムが開発・実施されている。これらプログラムの特徴は、プログラムに導入された介護者への教育やソーシャルワーカーの支援を受けると同時に、根拠に基づいた評価尺度により、介護者の負担感やうつ症状、困難への対処等が評価され、プログラムが見直されていくことである。本報告では、アメリカで行われた２つの介護者支援プログラム（Supporting Caregivers of Rural Veterans Electronically: SCORE、Resources for Enhancing Alzheimer’s Caregivers Health: REACH）について紹介する。これらプログラムの実施により、介護者の負担感やうつ症状、不安感等が軽減されていた。

Ａ．研究目的

アメリカは元来、個人主義や自己責任が強調され、社会保障においても、医療や介護に関わる公的な皆保険制度はない（一部、貧困者や高齢者のための制度はある）。しかし、1965 年に「Older Americans Act（アメリカ高齢者法）」が制定され、高齢者向けのサービスが規定されたり、2000 年にはこの中に「National Family Caregiver Support Program（家族介護者支援プログラム）」が創設され、介護者に対して介護情報提供やカウンセリング、また家族介護の補助サービス等を州が提供することが規定されている。さらに、支援プログラムを提供するだけでなく、介護者のニーズを満たしているかプログラムの評価を行い、サービスの見直しをしていくことも盛り込まれている。こうした国の動きを受けて、研究者らによる家族介護者支援プログラム開発が行われるようになった。これらプログラムの特徴は、プログラムに導入された介護者への教育やソーシャルワーカーの支援を受けると同時に、根拠に基づいた評価尺度により、介護者の負担感やうつ症状、困難への対処等が評価され、プログラムが見直されていくことである。本報告では、アメリカで行われた２つの介護者支援プログラム（Supporting Caregivers of Rural Veterans Electronically: SCORE、Resources for Enhancing Alzheimer’s Caregivers Health: REACH）について紹介する。

Ｂ．研究方法

SCORE: 別の研究事業でユタ大学に滞在中に情報収集を開始し、2016 年 9 月および、2017 年 2 月に、ユタ大学における研究者および退役軍人局（VA）のソーシャルワーカーや研究者らにヒアリングを実施した。

REACH：2016 年 11 月よりメールにてテネシー大学の研究者より情報収集を開始し、2017 年 2 月にテネシー大学を訪問し、研究者らにヒアリングを実施した。

（倫理面への配慮）
個人を特定できる情報は収集しておらず、報告書にも掲載しないため倫理面の問題なし。

C．研究結果
①SCORE
Scoreプロジェクトは、認知症を患った退役軍人の介護者を対象として、2010年から2012年の間に電子媒体を用いて行われた教育支援のRCT介入研究であり、ソルトレイクシティ（ユタ州）を主として、ロマ・リンダ（カリフォルニア州）、サウスジョージア島（フロリダ州）において行われた。ソルトレイクシティでは、ユタ大学の多様な学部の研究者と退役軍人局（VA）のMedical Centerの研究者や臨床家がチームを組み取り組んだ。229人の介護者に日ごろからインターネットを利用しているかを聞き、利用している群をHome Internet User (HIU)155人,利用していない群をHome Internet Non-User (HIN)74人に分け、さらにそれぞれを無作為に介入群とコントロール群に分けた。

介入群には、4～6か月の間、パソコンやテレヘルスを通して、認知症患者への関わり方、介護負担やストレスの軽減方法等を教育し、一方で、介護負担（Zarit）、うつ症状（DSM-4 criteria）、苦悩(The Marwit-Meuser Caregiver Grief Inventory-short From : MARWIT)、家族内対立・困難(2 questions by Scharlach)、施設入所希望(DIS)等を評価した。コントロール群にも、同様の情報をテキストブックおよびDVDで配布しており、またCare managerにいつでも連絡をしてよいこととなっていた。

その結果、HIU群においては、要介護者のニーズにこたえることの介護者の困難の度合いが介入群において有意に改善し、HIN群においてはMARWITの合計点とMarwitの下位尺度である心配と孤立感が介入群で有意に改善した。さらに、自由記載のアンケートにおいて、Care managerにいつでも連絡できる安心感や、Care managerの適切な示唆が多大な支援となったという回答が多数見受けられた。結果としては、有意な改善の見られた尺度は少なかったが、本研究はコントロール群にも一定の教育資料を提供したり、Care managerとの連絡を可能としていたことから、コントロール群も研究期間中に種々の困難が改善した可能性があり、本介入自体は、介護者に大きな支援となったと思われる。本プログラムは、期間中に定期的に負担感やストレスを評価することで、その都度必要な支援をすることができたり、プログラムの修正を行ったり、PTCAサイクルに則ったプログラム実施を行うことができる有意義なプログラムであると思われる。（参考文献1,2）
②REACH
REACHプロジェクトも認知症高齢者の介護者を対象としており、テネシー大学とVAの共同チームにより開発、実施された。REACHは、Ⅰ、Ⅱ、VA、Phase1,Phase2と5段階あり、Ⅰで作成されたプログラムを他の対象にあてはめ、また長期的に支援を実行するプログラムにするべく検証が行われている。大元のプログラムは、認知症高齢者の介護者に認知症患者への関わり方、介護負担やストレスの軽減方法等を教育するもので、ⅡはRCTの方法で2001～2004年に5つのサイト（Birmingham, Memphis, Miami, Palo Alto, Philadelphia）で実施された。6か月間の間、テキストブックを通しての宿題と電話による個人セッション、グループセッションで教育や評価を行ったところ、負担感、うつ、健康感、ソーシャルサポート、要介護者の行動管理、介護しない時間を1日あたり1時間増やすことにおいて、有意に改善していた。（参考文献3,4）

D．考察
両介護者支援プログラムとも、医学、社会学、心理学、老年学等、多様な専門家により開発、実施されており、実施後は種々

の評価尺度により科学的に評価され、その結果に基づきプログラム内容も修正されていた。いずれも、プログラムの教育や支援を受けることで、負担感やうつ症状、不安感が軽減されており、家族介護者が在宅介護を継続する上で非常に大きな支援となっていることが伺われた。

日本においても、家族会や市町村、介護サービス提供事業所、医療機関等により家族介護支援プログラムが提供されているものの、プログラムの内容やその効果が科学的に評価されているものは少なかった。今後わが国においても、根拠に基づいた支援プログラムを開発し、科学的に評価した上で介護者のニーズに即した支援をしていくことが求められる。

Ｅ．結論

アメリカでは、高齢者へのサービス提供や、家族介護者支援に関わるサービスについて、法律で明記されていた。これらのもと、研究者らにより家族介護者支援プログラムが開発され、本報告で紹介した SCORE や REACH といったプログラムの実施により、介護者の負担感やうつ症状、不安感等が軽減されていた。わが国においても、根拠に基づいた支援プログラムを開発し、科学的に評価した上で介護者のニーズに即した支援をしていくことが求められると考える。

【参考文献】

１．Hicken BL, Daniel C, Luptak M, Grant M, Kilian S, Rupper RW. Supporting caregivers of rural veterans electronically (SCORE). Journal of Rural Health 2016. DOI: 10.1111/jrh.12195.

２．Zheng R, Hicken BL, Hill RD, luptak M, Daniel CM, Grant M, Rupper R. Digital technology and caregiver training for older persons: Cognitive and affective perspectives. Educational Gerontology 2016. DOI: 10.1080/03601277.2016.1161989

３．Nichols LO, Adams JM, Burns R, Graney MJ, Zuber J. Translation of a dementia caregiver support program in a health care system - REACH VA. Archives of Internal Medicine 2011; 171: 353-359.

４．Nichols LO, Adams JM, Burns R, Zuber J, Graney MJ. REACH VA: Moving from translation to system implementation. The Gerontologist 2016; 56: 135-144.

Ｆ．研究発表

１．論文発表

なし

２．学会発表

なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

Ｇ．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

１．特許取得

なし

２．実用新案登録

なし

３．その他

なし